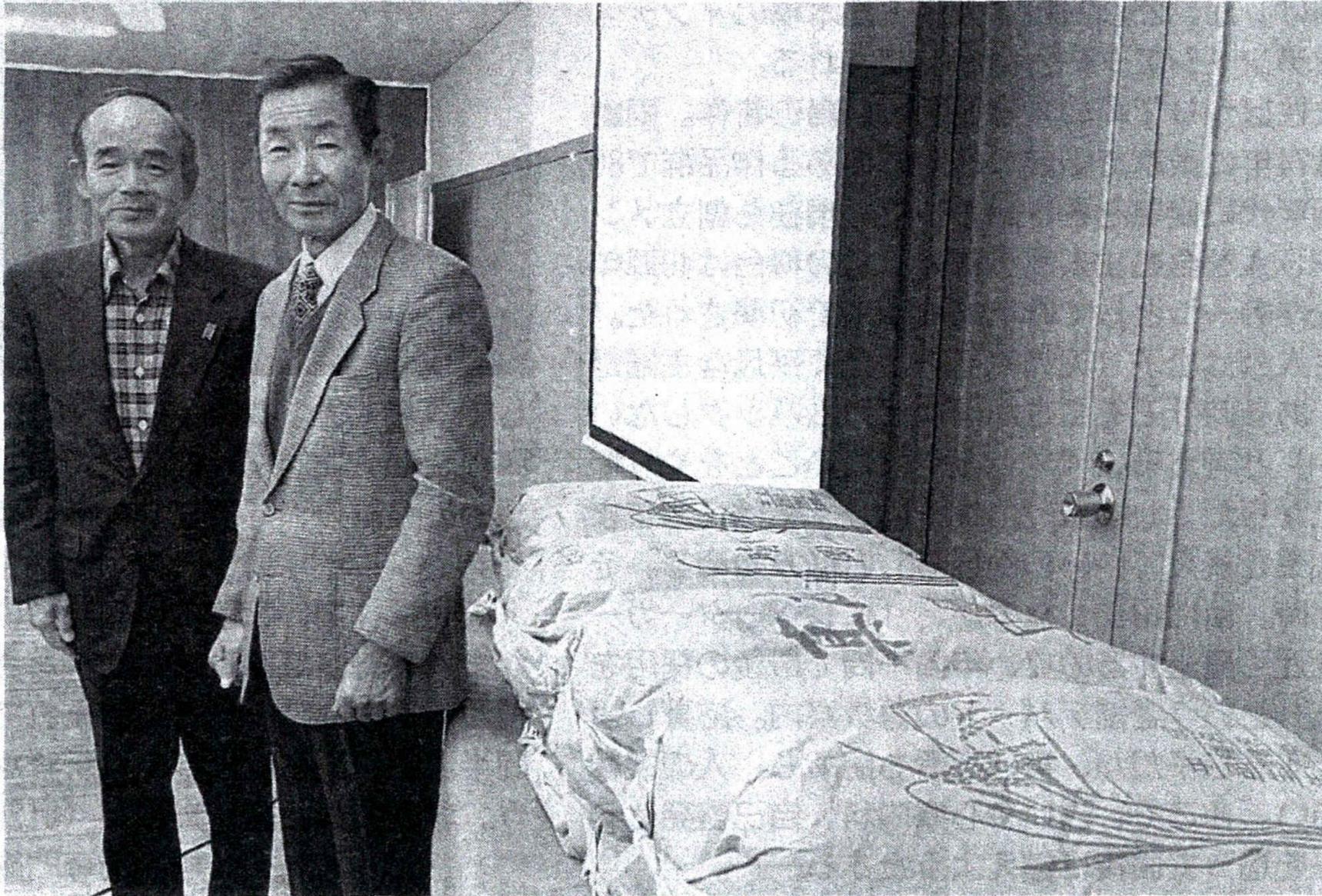


米と一緒に届け希望

たものの、継続した仕事に就けずに生活に困窮する人が目立つという。米をもらい受け、現地で路上生活者らを直接支援するNPOは「今日や明日を生きる希望も米と一緒に届けてくれている」と感謝する。【久木田照子】

東日本大震災

国際医療NGO「AMDA」(北区)に協力する県内の農家らでつくるグループ「AMDA支援農家」が2013年から、仙台市内の路上生活者らの支援のために米を提供している。同市では、東日本大震災の復興事業をあてに他地域から来



仙台に送る米を準備したAMDA支援農家のメンバー(北区で)

AMDA支援農家 仙台の路上生活者支援

仙台市で路上生活者の米の確保が難しくな
の支援に取り組むNPO た状況を聞き、毎年
0「仙台夜回りグルー 米を送るようになった
プ」によると、同市内 という。農家グルー
に現在、路上生活者は は現在、AMDAと
約1205130人お 海トラフ地震などに
り、その日の収入次第 えた食料の備蓄や発
でインターネットカフ 時の被災地支援策を
エなどに泊まって暮ら える取り組みも行う
す「予備軍」も500 現地に届いた米は
人を超えるという。 定期的な炊き出しな

最近、増えているの によって路上生活者
が30代前後の世代。復 が口にする。食事を
興事業で行われる土木 供することで、路上
工事などに職を求めて 活者らがNPOのス
各地から来たのに、短 ップらに生活状況や
期間の仕事しか見つけ みを話しやすい雰囲気
られず、生活に困って が生まれるという。
いくといった人も少な 今季は、昨年秋に
くない。NPOの今井 穫された米を12月か
誠二理事長は「2次的 発送。今後も順次送
な震災被害者だ。こう 続け、計1・5トを
した人たちが自力で生 供する予定だ。支援
活状況を変えるのは難 家の西村輝さん(53)
しい」と指摘する。 北区庭瀬Ⅱらは「米
AMDAの呼びかけ 通じて被災地とのつ
で13年に結成された支 がりを続けたい。支
援農家のグループは、 で学んだ経験は、将
NPOから路上生活者 の災害時に生きるは
らの実体や活動に使う だ」と話している。